

登録コード	UAC71500	開講年度	2026				
授業題目	社会心理学研究				担当教員	岡本 卓也	
					副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・2時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】		
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する社会心理学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有することができる。		
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。				高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有することができる。		
	【人間文化学】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				さまざまな社会心理学領域の総合的な知見を活かし、社会のさまざまな問題を俯瞰的な視野で捉える能力を獲得することができる。		
(2)授業の概要	人は他者との関係の中で生きる存在である。人の行動は、他者や社会からの影響を強く受けており、また逆に周りの人間関係にも大きな影響を与えている。本授業では、「人がいかに社会的な存在であるか」を理解することを目的に、人間の社会的行動について多面的に検討を行う。これらを通して、社会心理学の基本的な分析枠組みを理解出来るようになることを目指す。また、日常生活における自分や他者の行動を科学的にとらえることの意味を理解し、自らの問題を考える上での理論的な枠組みを身につけることを目指す。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：社会科学における社会心理学の位置づけ 第3回：社会心理学の研究法に関する理論的基盤（概説） 第4回：社会心理学の研究法に関する理論的基盤（発表と討論） 第5回：社会心理学の研究法に関する理論的基盤（まとめ） 第6回：社会的影響過程に関する理論的基盤（概説） 第7回：社会的影響過程に関する理論的基盤（発表と討論） 第8回：社会的影響過程に関する理論的基盤（まとめ） 第9回：対人相互作用に関する理論的基盤（概説） 第10回：対人相互作用に関する理論的基盤（発表と討論） 第11回：対人相互作用に関する理論的基盤（まとめ） 第12回：集団過程に関する理論的基盤（概説） 第13回：集団過程に関する理論的基盤（発表と討論） 第14回：集団過程に関する理論的基盤（まとめ） 第15回：集団過程に関する社会心理学研究の統合的な議論 授業終了後に課される、最終レポートおよび授業での討論の内容によって評価を実施する。						
(4)成績評価の方法	社会心理学が扱う問題は、日常的な現象や問題が多い。このような日常的な人間の行動について、科学的な観点から考察するための基礎として、社会心理学や近接領域の知見や理論を概説する。その上で、受講生の研究に関連する最新の研究事例について詳細に検討することで、人間行動のメカニズムや、社会心理学の考え方を理解し、それらの知識を自分の普段の生活にも生かせるようになることを目指す。 社会心理学に関する理論や知見について、授業での発表および討論（50％）、最終レポート（50％）により評価する。						
(5)成績評価の基準	1. 集団の特徴に関する理論を理解出来ている 2. 集団と個人に関する理論を理解出来ている 3. 集団内の個人行動に関する理論を理解出来ている 4. 集団間の関係性に関する理論を理解出来ている 5. 集団と人の関係について総合的に理解出来ている。 1～6までの全て満たしていれば「卓越している」、5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目であれば「やや上にある」、3項目であれば「その水準にある」と評価する。						
(6)事前事後学習の内容	授業で取り上げる論文については、事前に履修者全員に連絡を行うので、各自で精読の上、問題点や疑問点を纏めておくこと。また、授業後には、授業内で理解出来なかった点について纏め、発表者あるいは教員に質問に来ること。						
(7)履修上の注意	本講義で取り扱うトピックは、ニュースやその他のメディアでも取り上げられるものが多い。日常的にそれらの情報に注意を向け、関連する事例については、詳細な情報を収集し、授業で得た知識や参考書を元に論考すること。 本授業では生成系AI（ChatGPT等）の利用を禁止しない。ただし、「思考の代行」としてではなく、「学習補助」としての利用に限定する。具体的には、文章の推敲、文献・事例の探索等に用いるにとどめ、自分の主張の核（問い、立場、論証）は必ず自分の頭をつかって構築すること。また、AIが提示した参考文献や知見には誤りが含まれる可能性がある。したがって、レポート等で論拠として挙げる文献については、AIの要約や二次情報のみに依拠せず、必ず原典（一次資料）を自分で入手して通読し、内容を理解した資料のみ引用・参照を認める。その上で、生成系AIを利用した場合は、利用箇所・用途を明記すること。以上（主張の中核を自ら構築すること、原典確認、利用箇所・用途の明記等）を満たさない						

(7)履修上の注意	まま提出したことが確認された場合，減点の対象，または不正行為として取り扱う場合がある。
(8)質問,相談への対応	質問・相談に関しては，オフィスアワー（火曜日の昼休み）にて研究室で対応する。
【教科書】	Taylor, M. & Moghaddam, F. (1994). Theories of Intergroup Relations: International Social Psychological Perspectives. Praeger Pub.
【参考書】	ジョン・T.ジョスト・北村英哉・池上知子・沼崎誠(2022).システム正当化理論　ちとせプレス 岩谷舟真・正木郁太郎・村本由紀子(2023)　多元的無知：不人気な規範の維持メカニズム 東京大学出版会